

堰本その昔

伊達市に人々が住むようになったのは、旧石器時代といわれています。

奈良・平安時代には、東山道に駅家が設置され郡家が置かれました。南北朝時代の1337(延元2)年には、南朝の北畠顕家が後醍醐天皇の皇子義良親王(後の後村上天皇)を奉じ、霊山を中心に陸奥の国府を多賀城から移し、一時的ではありましたがここに王城を築きました。その名残が細谷地区の新山古墳群にあります。

(伊達市広報より抜粋)



交流館の管理運営および担当事業

小賀坂 光義 (事務局長)

事業内容：毎月 各種団体による交流館周辺の整備

8月 「伊達のふるさと祭り」梁川踊り参加

1月 堰本地区賀詞交換会

広報担当 (会計兼務)

鈴木 一之 (事務局次長)、スタッフ：各地区2名、計6名

事業内容：季刊誌「里づくりせきもと」発行、会計担当

令和元年度 せきもとさとづくり推進協議会収支予算書

収入の部

(単位 円)

科目	予算額	摘要
繰越金	234,375円	前年度繰越金
会費	577,500円	700円×825戸
交付金	3,199,000円	伊達市交付金
使用料	67,125円	コピー機使用料
諸収入	30,000円	県下一斉クリーンアップ報償金
合計	4,108,000円	

支出の部

(単位 円)

科目	予算額	摘要
報酬等	1,500,000円	事務局員給与、役員報酬等
旅費交通費	50,000円	セミナー移動学習
消耗品費	600,000円	事務消耗品、事業用消耗品他
食料費	30,000円	防災訓練賄い等
印刷製本費	100,000円	広報紙作成等
修繕費	30,000円	備品等修繕費
通信費	80,000円	郵送料
手数料	10,000円	振込手数料等
賃借料	800,000円	コピー機リース料、カウンター料金等
備品購入費	200,000円	プロジェクター一式他
委託料	50,000円	事業委託費等
交際費	50,000円	お祝い等
負担金	30,000円	自治連絡会負担金
保険費	260,000円	自治会保険料他
予備費	318,000円	
合計	4,108,000円	

堰本について

人口 2,712人 (男性1,331人、女性1,381人) 2019年6月末現在

沿革 明治22年4月、大関村と新田村と細谷村が合併し堰本村となる。

(大関は、明治9年に関波村と大門村が合併し大関となっている。)

昭和30年3月、梁川町に統合する。(1町6ヵ村)

主要な産業 農業 (主な農産物、さや/スナップエンドウ/グリーンピース/キュウリ/桃
インゲン/ブドウ/リンゴ/あんぽ柿/春菊/イチゴ等)

堰本小学校について

昭和16年4月、大関尋常小学校(明治9年2月開校)、細谷尋常小学校(明治7年10月開校)、新田尋常小学校(明治7年9月開校)を統合し、堰本村立国民学校となる。昭和22年4月、堰本村立堰本小学校と改称。昭和30年町村合併により、梁川町立堰本小学校となる。

昭和44年4月、堰本幼稚園開園。

せきもと交流館について

平成16年11月、堰本地区民の交流の場として堰本ふるさと会館ができる。

大関四つ葉会の活動

代表

菅野克子（中ノ内町内会）

平成26年に発足した大関四つ葉会は、現在37名の会員が登録し、毎月第3金曜日を定例日として5名のスタッフで運営しています。

毎回、25名以上の参加があり、お楽しみ旅行は年2回実施、4月は集会所の桜の木の下でのお花見会、7月は七夕会、10月は芋煮会、12月はクリスマス会などの季節にあわせた活動や、集会所周辺の草むしりや、各家からの持ち寄りで花を植えるなどもしています。

会発足のきっかけは、中ノ内町内会の高齢者の方々にいつまでも元気でいてほしいことと、地域のコミュニケーションを図っていきなことを有志の話し合いの中から出てきました。

参加されている方は、和気あいあいと過ごし、次回の開催を楽しみに待っています。今後も継続して取り組んでいきたいと会員は頑張っています。

果樹一筋50余年

鈴木茂信（入ノ内町内会）



県立農蚕高校を卒業し、親の後を継いで農業をずっと営んできました。妻と一緒に二人三脚で畑に出て、自然相手の職業は、自然災害など時には厳しいところもありますが、心豊かにさせるものが多くあります。

現在、桃、リンゴ、水稲、アンボ柿など1年間を通して農作業が出来るように配分しています。今年は7月中旬ごろまで低温の日々が続き、甘さがなかなか確保できず、その後、暑い日が続く、ようやく美味しい桃を出荷出来ました。

アンボ柿は一時原発事故で出荷できないうちもありましたが、減圧乾燥設備を導入し、最小限にかぶれをこめ、良質なアンボ柿を出荷できるように心がけています。



中ノ内集会所で
賑やかにお花見会

地域の方々紹介コーナー

今年の5月は伊達警察署のお巡りさんをお呼びしての交通教室を開催し、「大変、勉強になった」との参加者の声がありました。また、毎回、替え歌やゲームをするなど工夫し、楽しく和やかな雰囲気の中で参加していただけるように努めています。

取材でお会いしたスタッフの皆さんの笑顔は、オレンジ色のユニフォーム同様、明るくはつらつとされています。



大関四つ葉会の皆さん

子ども2人は、それぞれ結婚し、孫たちを連れて帰ってくるのが楽しみです。賑やかな時間も、孫たちが帰ると二人の静かな時間に。農閑期を夫婦でドライブしたり、趣味の読書を楽しんでいます。

専業農家として、この道50年。

日差しから目を守るためサンングラスをかけたリ、日焼けにも注意しながら、健康で働き続けられることに感謝しています。もつすく70代になります。が、体力に依っていつまでも美味しい農産物を出荷できるように心がけていきたいと思っています。

それと、笑顔の絶えない明るい夫婦でいられることが、一番かなと思いますね！

黄金桃の収穫。
コンテナ詰めする龍子さん



地域の方々紹介コーナー

今、こころで調える

洞雲寺住職 柳澤 智蓮

気がもめるとき、思いと違う方向に進んでしまう時、自分の失敗に不意に気づいた時、など、逆境にさらされたとき、私たちの身体はどんな様子になるでしょう。

おそらく呼吸は浅くなり、中には脈が早くなる方もいらっしゃると思います。さらにそんな時、追い打ちをかけるような事が続いたりするもので、イライラした言葉を放ってしまったり、ストレスを溜めてしまうことになったりします。そしてきつと呼吸はまた浅くなっているでしょう。

気分を入れ替えるのに私たちはしばしばため息をつきます。自然にそう体が動きます。素晴らしい体のメカニズムです。酸素を多く取り入れて体調を保つためです。ちなみに、幸せが逃げたりなんかしません。(笑)

でも、その時の姿勢はいかがでしょうか。うなだれていませんか。肘をつけていたり腰が落ちていたりしませんか。せつかく空気を入れ替えるのであれば背筋を伸ばして顔を前に向けてからにしてみませんか。

疲れた心を調えるのに、まず背筋を伸ばして身体を保ち、息を調べてみる

新田の桜の名所を目指して

〜新田桜の木整備事業〜

「この土手に桜が咲いたら見事だろうなあ」、草木が生い茂る斜面の雑草を刈る事から、新田会陽光台地区含むの新たな事業として『新田桜の木整備事業』が始まりました。

新田会橋典雄会長が中心となり、伊達市よりの助成と『日本さくら会』の「宝くじ桜寄贈事業」により新田字宮崎地内に植樹地を整備し、平成二十九年度より桜苗木の植樹を開始しました。

植樹地は草木が生い茂り、また長期間放置されていたためゴミ等散乱していましたが、会員による草刈り清掃と業者委託による立木伐採で整備しました。また植樹後も定期的な草刈りや手入れを実施し、桜の木の成長を見守っています。

平成二十九年度には五十本、平成三十年度にも五十本の桜の木の苗木寄贈を受け、「ウコン桜」「関山」「陽光桜」等の植樹を済ませており、令和を迎えた今年度も「日本さくら会」

のです。大きく息を吐ききってから、今度は深く澄んだ空気を入れてみます。あとはゆっくり静かに深い呼吸を続けます。これ、実は今、海外でも話題になっている「坐禅」のカタチです。少しの間、静寂の中に、自分の呼吸を感じてみましょう。

「そんなことしている暇はない」なんて言わないで、心がすがすがしい時も、そうでないときも、「わざと」余裕を作ってみましょう。一日ほんの五分でもいいのです。大丈夫な方は十分ほどでも。

お寺さんコラム

「調身 調息 調心」。姿勢と呼吸を調べてみると、気づけずにいたことに気づくかもしれません。あるいは、何も気づかないかもしれません。どちらでもいいのです。そこにこだわるところではありません。只！只！その呼吸を、感じて過ごす時を設けるのです。限られた時空の中で、授かった命を生きる私たちは、過去でも未来でもなく、「この時」を丁寧に過ごしていくことが大切なのでしょう。

置かれたところで調べて、心柔らかな日暮らしをしたいものです。

愛宕山からの新田遠景



会」に苗木寄贈の申請をしているところです。

今度の目標としては「植栽地整備」があります。「桜の花見ができる環境」作りにはまだ多くの課題があります。新田会を軸としながら地区の皆様のご理解とご協力をいただき、素晴らしい桜並木を目指して努力を続けていきたいと考えております。

(陽光台町内会) 三浦 麻栄

取材協力

新田会会長 橋典雄さん

